日本エアテツク 社内報

JAT 社内報

2026年 秋号
発行：日本エアテツク 企画管理部

日本エアテツク社内報

JAT 社内報

2026年 秋号

【発行】
日本エアテツク
企画管理部

KEYMAN's INTERVIEW

キーマンズ・インタビュー

―― 当社の鍵を握るあの人に、聞いてみたいことがある。 ――

KEYMAN's INTERVIEW

近年、AI普及に伴うデータセンター需要の拡大などを背景に、産業用ガスタービンの需要も堅調な伸びが続いています。

この分野でのカギを握るのは、明石工場の溶接工程。当社の溶接には「TIG溶接」と「抵抗溶接」がありますが、今回のキーマンズインタビューでは、産業用ガスタービン部品の精密な製造に不可欠な「抵抗溶接」にフォーカスし、今後の増産にどのように対応していくのか伺いました。

株式会社日本エアテック　生産技術部 副部長　有吉（ありよし） 準（じゅん）さん

―産業用ガスタービン部品の製造において、抵抗溶接はどのような工程を担っているのでしょうか。

有吉　抵抗溶接は、主にプレス成形などで加工された板金部品を接合し、組み立てる工程を担っています。一般的に溶接といえば、アークや炎を使って金属を溶かす、青白い光でバチバチと音を出して作業している姿をイメージする方も多いと思います。一方、抵抗溶接は金属に電気を流したときに発生する熱と、電極で押さえる力を利用して金属同士を溶かして接合します。当社では、重ね合わせた金属板を電極で挟み、点状に接合する「スポット溶接」と、ローラー状の電極で加圧しながら連続的に接合する「シーム溶接」の二つの方法を用いています。

津山　一般的な溶接のように、大きな火花や強い光を伴わないので、初めて見ると「これが溶接なの？」と思うかもしれません。作業は手作業による部分が多く、製品の素材や形状に合わせて、一つひとつ位置や角度を調整していきます。安定した品質を確保するためには、作業者の技術と経験が欠かせません。抵抗溶接は、産業用ガスタービン部品の製造を支える重要な工程の一つです。

株式会社日本エアテック　生産技術部 生産技術課 主任　津山（つやま） 浩志（ひろし）さん

―抵抗溶接において、特にポイントとなる作業を教えてください。

川井　特に重要なのが、実際の製品を溶接する前に行う試験です。溶接部は外観だけでは加工の良否を判断できないため、事前に試験を行い、規格要求を満たしていることを確認します。抵抗溶接では製品ごとに条件が定められており、電流・圧力・時間などをデータカードに従って条件を設定します。その条件で製品と同じ材質の試験片を溶接し、切断して接合部の状態を確認します。この試験を製品ロットごとに行い、問題がないことを確認してから、実際の製品の溶接に移ります。

鈴木　試験をクリアした後も気が抜けません。実際の製品では、溶接する箇所や作業中の状態にも注意を払いながら、一つひとつ確実に作業を進める必要があります。また、電極やホイールも徐々に摩耗するため、その状態を見ながら適切に調整していきます。

川井　そうした変化を見極めながら対応していくところは、経験が必要なポイントです。

―手仕事の抵抗溶接は、職人的な技術や経験が求められる場面も多そうですね。

川井　そうですね。私は約10年抵抗溶接を担当していますが、まだまだ判断に迷うことがあります。特に難しいのが、データカードの条件出しです。初めての製品は、規格を満たす溶接をするための条件を考えなくてはなりません。このとき、慎重にしすぎても大胆にしすぎても、規格から外れやすくなります。ちょうどいいバランスの条件を出すには、技術と経験が必要です。私も師匠であるベテランの先輩に随時教えてもらって、今でも学び続けています。

株式会社日本エアテック　第二工作部 工作課 班長　川井（かわい） 英揮（ひでき）さん

鈴木　私は最近、抵抗溶接チームに配属されたばかりなので、製品を持つところから難しいと感じています（苦笑）。それぞれ異なる形状のパーツを的確に溶接するには、適切な電極の傾きや製品の進入角度が重要です。いまはその技術を習得するために日々奮闘しています。

―需要拡大に伴う増産に対応していくために、抵抗溶接ではどのような取り組みが必要でしょうか。

有吉　まずは限られた人数と設備で高品質な製品を安定的に供給し続けるために、工程の見直しや作業の効率化を進め、生産性を高めていくことが不可欠だと考えています。そのためには、個人の技術や経験だけに頼るのではなく、誰もが効率的かつ安全に作業できる現場環境や体制を整えていく必要があります。

株式会社日本エアテック　第二工作部 工作課　鈴木（すずき） 省吾（しょうご）さん

川井　現場としては、熟練者の技術や判断基準をしっかり言語化・共有し、マニュアルの標準化や指導体制の強化を図り、若手社員が早期に技術を習得できるよう取り組んでいきます。

―ありがとうございました。最後に、今後の展望やメッセージをお願いします。

川井　増産に対応していくために、人材の育成と技術の継承が重要だと考えています。鈴木さんは期待のルーキーですが、より多くの人に技術を受け継いでいただきたいと考えています。

津山　作業者の負担を軽減し、効率的に生産できる仕組みづくりも重要です。将来、新たな溶接設備を導入する際には、自動化や作業をサポートする機能なども取り入れながら、作業者の負担軽減や生産性の向上につなげていきたいと考えています。

有吉　これまで培ってきた技術や経験と品質管理体制を連携させながら、今後も多様な需要に応えられる生産基盤の確立を目指していきますので、今後の抵抗溶接チームの活躍に注目いただけると嬉しいです。

TOPICS

"今後の事業拡大に向けて"

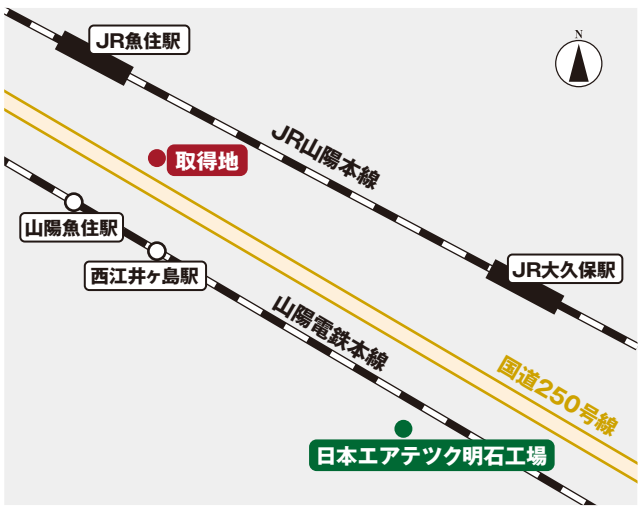
当社はこの度、不動産会社から紹介を受けて、日新信用金庫様をはじめとした各金融機関の力強いご支援のもと、明石市魚住町中尾の工場用地を取得しました。

取得した目的は、顧客の増産動向を踏まえ、県内3か所にある当社各事業所それぞれの役割を考慮した上で、この補完と当社の全体能力のさらなる拡充を目指すためです。

現在、当社で考えているこの用地の主な用途としては、わが国の内外で安全保障関連の強化が叫ばれている現在、その対応に顧客からも強い要望を受けており、この実現に向けて、当社としても積極的に寄与するために、当社千種工場に加えて、この新規用地を利用する計画です。

なお、この用地は、顧客のみならず当社本社工場からも地理的に近い場所にあるため、顧客や当社各事業所との相互連携や、当社人員の動線的にも有利であり、また各公共交通機関ともほぼ等距離にあるという高い利便性も、当社がここを選定した理由になっています。

今回取得した用地は、今は何もない、これから種まきを始める土地です。

この実りの成否は、全社各事業所総員の相互連携が必須であり、将来の当社4事業所体制に向け、各位の無限の知恵を積み重ね一丸となって進めば、大いなる収穫につながることはご理解いただけるかと思います。

当社各位におかれましては、絶大なご協力のほどお願いいたします。